

2025年 第18週（4月28日～5月4日）の感染症発生動向調査情報

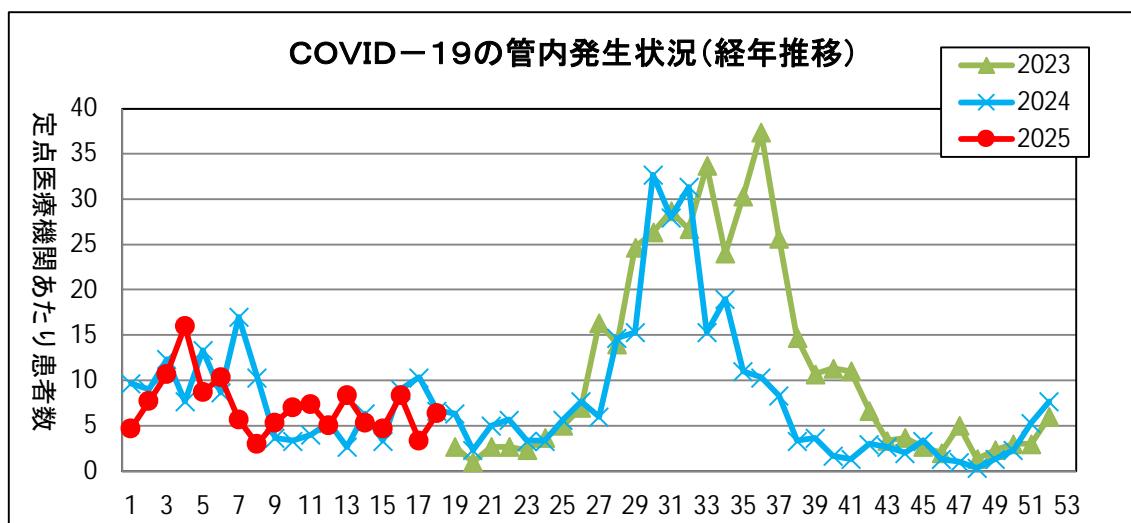
<今週の内容>

- 1 新型コロナウイルス感染症について
- 2 インフルエンザについて
- 3 管内の感染症発生状況（上記2疾患以外のもの）
- 4 県内の感染症発生状況（百日咳）

I 新型コロナウイルス感染症について

管内では、定点あたり報告数は今週6.33人（先週3.33人）で先週から増加し、兵庫県内の定点あたり報告数も今週1.20人（先週1.11人）となり、先週から増加しました。地域別では、当所管内が6.33人と最も多く、龍野保健所管内6.00人、宝塚保健所管内4.20人となっており、年齢別では、40歳代が13%と最も多く、次いで80歳以上が12%となっています。

県民の皆様には引き続き3密の回避、手指消毒、効果的な換気、マスクの適切な着用といった基本的な感染症対策をお願いします。



注) 2023年5月8日から新型コロナウイルス感染症は定点把握になりました。

<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[新型コロナウイルス感染症\(COVID-19\)に関する情報](#)

[兵庫県感染症情報センター](#)

◆厚生労働省ホームページ

[新型コロナウイルス感染症について](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

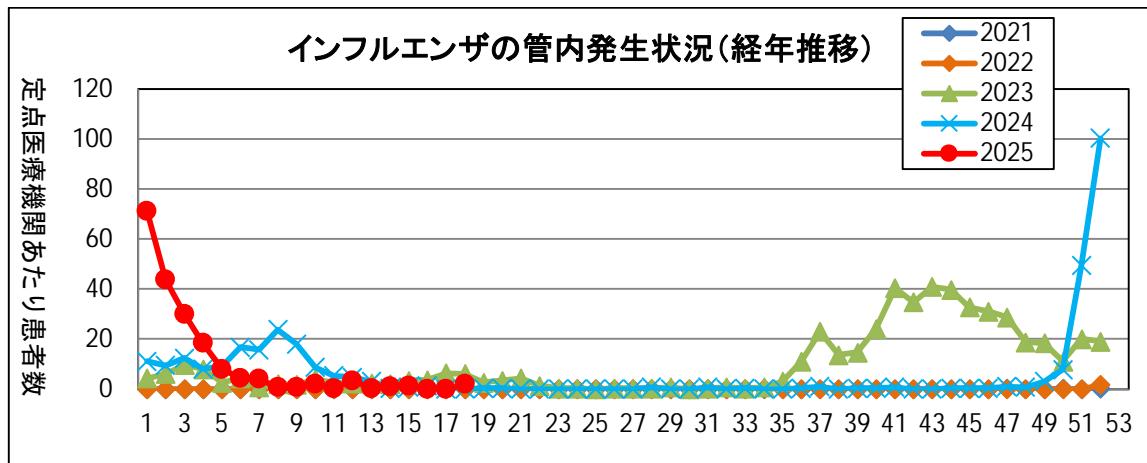
[コロナウイルス感染症](#)

2 インフルエンザについて

管内のインフルエンザの定点あたり患者数は、今週 2.00 人で、先週 (0 人) から増加し、兵庫県内の定点あたり患者数も今週 1.48 人で、先週 (1.03 人) から増加しました。

直近の 5 週間に県内の定点医療機関から報告された患者 927 人の年齢分布では、5~9 歳が 29%、10~14 歳が 23% で、15 歳未満が全体の 65% を占めています。

インフルエンザの予防には、ワクチン接種、手洗いが有効です。また、感染が疑われる場合は、マスクの着用、咳エチケット、早めの受診が重要です。



<感染症に関する情報>

◆兵庫県ホームページ

[インフルエンザ疾患の発生状況\(学級閉鎖・集団発生\)](#)

[兵庫県インフルエンザ情報センター](#)

◆国立健康危機管理研究機構ホームページ

[インフルエンザ](#)

3 管内の感染症発生状況（新型コロナ以外のもの）

(1) 管内の全数把握感染症（すべての医療機関から報告を求める感染症）

第 18 週は、百日咳が 4 人報告されました。

(2) 定点把握感染症（指定された医療機関から報告を求める感染症）

(2025 年 18 週) ※定当：定点当たり患者数

インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	COVID-19
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
6	2	-	-	1	0.5	6	3	-	2
									19
									6.33

ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性結膜炎	無菌性結膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	急性呼吸器感染症
報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当	報告	定当
-	-	-	-	-	-	218
									72.67

※2025 年 4 月 7 日から急性呼吸器感染症が追加になりました。詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

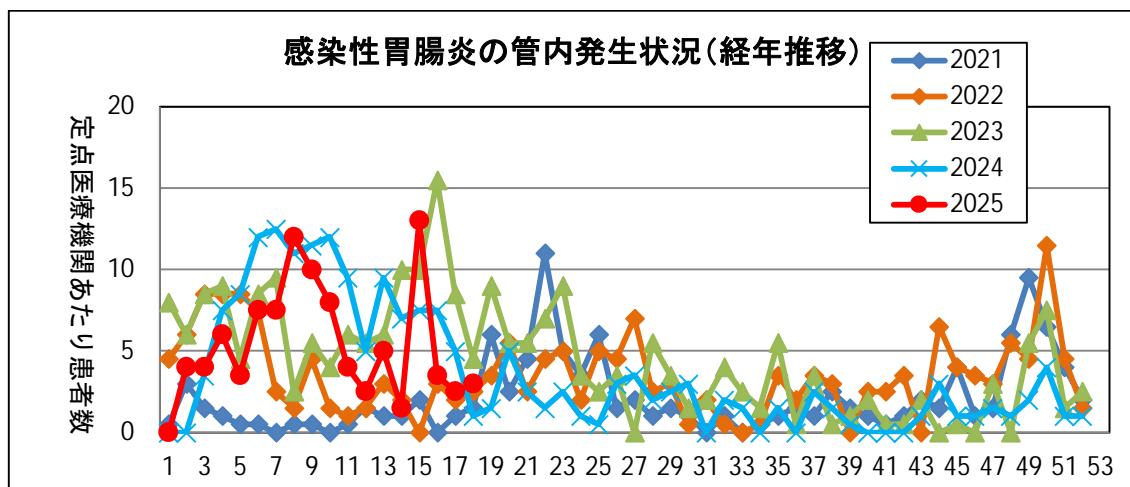
◆厚生労働省ホームページ

[急性呼吸器感染症\(ARI\)](#)

管内では、感染性胃腸炎の定点あたり患者数が3.00人で、先週(2.50人)から増加し、兵庫県では7.73人で、先週(9.04人)から減少しました。

また、県内の社会福祉施設等においては、今週1件(先週2件)の集団発生が報告されています。

トイレの後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗うようにしてください。また、便や嘔吐物を処理する際は、使い捨て手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は石けんと流水で十分に手を洗ってください。カキなどの二枚貝を調理する際は、中心部まで十分に加熱してください。



<感染症に関する情報>

◆[兵庫県ホームページ](#)

[感染性胃腸炎\(ノロウイルス等\)について](#)

◆[国立健康危機管理研究機構ホームページ](#)

[感染性胃腸炎](#)

4 県内の感染症発生状況(百日咳)

管内では、今週91人(先週110人)の報告があり、今年の累積患者数は772人となりました。当所管内でも4人の報告があり、今年の累積患者数は5人となっています。県内で今年発生した推定感染経路として、家族内感染が429人、学校内流行が150人報告されています。百日咳は主に患者の咳やくしゃみなどにより、しぶきに含まれる細菌を吸い込むことによって感染(飛沫感染)し、7~10日の潜伏期間を経て風邪症状がみられ、次第に咳の回数が増えて強くなります(約2週間)。その後、短い咳が連続的に起こり、咳の最後に大きく息を吸い込み、痰を出しておさまるという症状を繰り返します(約2~3週間)。ワクチン未接種の乳幼児が感染すると、嘔吐や無呼吸を伴い、重篤化しやすいので注意が必要です。また、乳児期にワクチン接種を受けていても、終生免疫は得られないで、成長後に感染することがあります。予防として、咳エチケットなどの一般的な感染対策が有効となります。

<感染症に関する情報>

◆[兵庫県ホームページ](#)

[百日咳について](#)

◆[国立健康危機管理研究機構ホームページ](#)

[百日咳](#)

[百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン\(第三版\)](#)